

第56期 事業報告書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

 777電子株式会社

医療と健康をつなぐテクノロジー



目次

ごあいさつ	1
財務ハイライト	2
特集	3
新製品紹介	5
トピックス	6
連結営業の概況	7
部門別の連結概況	8
連結財務諸表	9
単体財務諸表	12
会社概要	13
株式の状況	14
お知らせ	14

取締役社長

福田 考太郎



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、平成15年3月31日をもちまして、第56期を終了いたしましたので、ここに営業の概況ならびに当期決算につきましてご報告申し上げます。

なお、当期末の配当金は、1株につき15円とし、中間配当金15円と合わせて通期配当金は30円とさせていただきます。

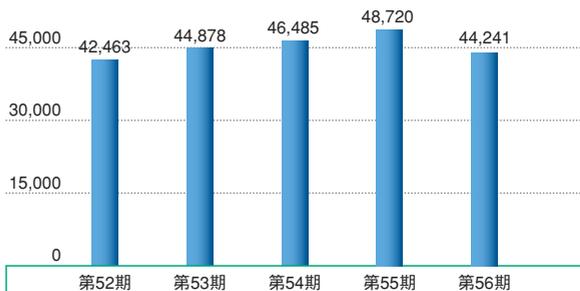
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

● 単体

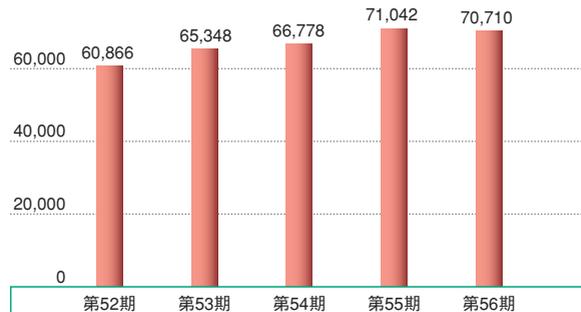
(単位 百万円)

売上高



● 連結

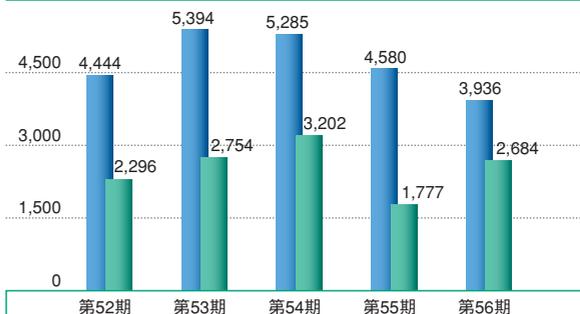
(単位 百万円)



■ 経常利益 ■ 当期利益

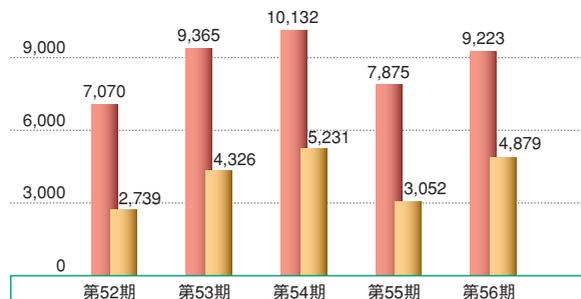
(単位 百万円)

経常利益・当期利益



■ 経常利益 ■ 当期純利益

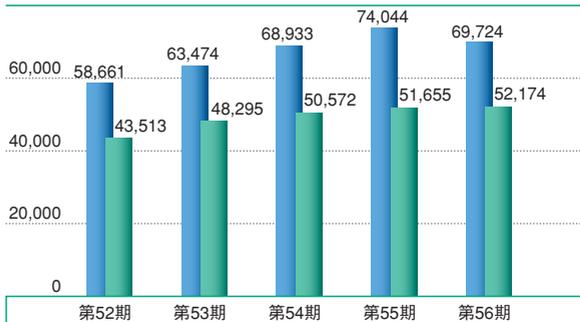
(単位 百万円)



■ 総資産 ■ 純資産

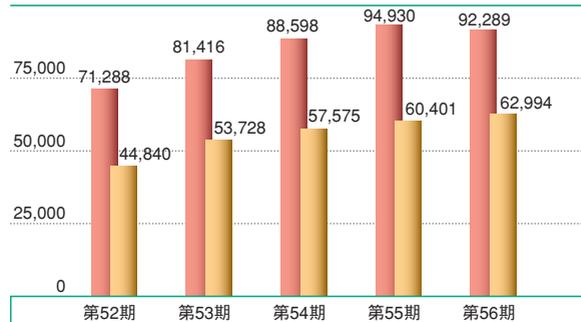
(単位 百万円)

総資産・純資産



■ 総資産 ■ 純資産

(単位 百万円)



腕時計感覚で睡眠時無呼吸検査！

最近、メディアでも取り上げられている交通機関における居眠り運転を契機にして、国民の睡眠時無呼吸症候群（以下SAS）への関心が高まってきました。3月には国会でも、この問題に関係した運輸・交通従事者についてのSAS関連の質疑が行われ、睡眠呼吸障害に起因する事故等の防止対策に関する連絡会議も開催されています。

SASの検査は、①問診 ②SASと診断するためのスクリーニング検査 ③SASと診断された患者様の治療方針を決定するための入院を伴う精密検査があります。①の問診では、世界標準の問診票（ESS問診票＝Epworth Sleepiness Scale）が用いられます。



■ESS問診票

当てはまるものを選んで点数で答えて下さい

*11点以上は睡眠障害の疑いがあります

- 0：居眠りをする事は絶対にない
- 1：時々居眠りをする事がある
- 2：居眠りをする事がある
- 3：だいたいいつも居眠りをしてしまう

- 座って読書をしているとき
- テレビを見ているとき
- 人の大勢居る場所で座っているとき（会議中や映画館にいるときなど）
- 他の人が運転する車に乗せてもらっていて、1時間くらい休憩なしでずっと乗っているとき
- 座って人とおしゃべりしているとき
- お昼ご飯の後に、静かに座っているとき
- 午後にじっと横になっているとき
- 自分が車を運転していて、数分間信号待ちをしているとき



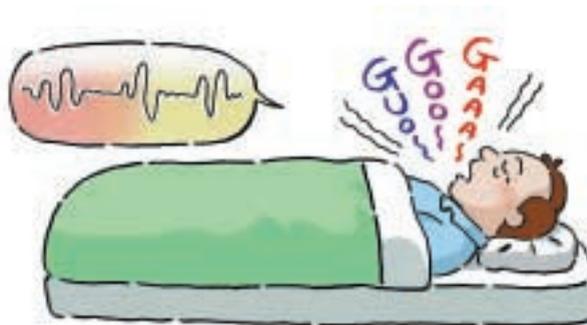
携帯型睡眠ポリグラフ パルスリーブ LS-100
医療用具承認番号：21400BZZ00537000

②のスクリーニング検査は、この問診によりSASが強く疑われる患者様に対し、SASの診断を目的として実施する検査です。検査項目は、鼻呼吸・気道音（いびき音）・動脈血酸素飽和度の3項目で、終夜連続して測定します。この検査は、患者様のご負担を軽減するため、携帯型睡眠ポリグラフ装置が用いられご自宅で簡単にできます。

当社では、従来器の「スリープテスタLT-200」に加えて、今春に「パルスリーブLS-100」を発売しました。この製品は、検査項目を上記の3項目に絞り、測定と装着をよりシンプルに腕時計感覚で検査ができる特徴を持っています。

SASへの関心の高まりは、即ち、「自分はSASかもしれない」という不安を抱く人々が多い証拠です。このパルスリーブLS-100はSASの診断や判定に安心してお使いいただける製品です。

SASの有病率は、日本の人口の1~2%といわれており、循環器障害や脳血管障害の併発も指摘されています。また、個人の健康を損なうだけでなく、日中傾眠から引き起される交



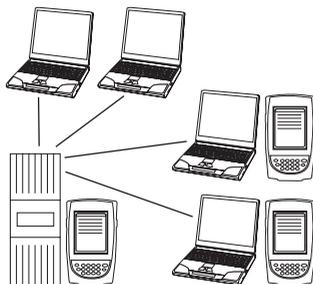
通事故や産業事故の損失を計算すると莫大なものとなります。

当社では、スクリーニング検査から精密検査までの検査装置と、治療装置であるCPAPのレンタルサービスを行い、睡眠医療のお手伝いを行っています。フクダ電子グループは患者様の良い眠りのために、検査装置の導入から治療装置の在宅サービスまで、万全のサポート体制でお応えしてまいります。



■睡眠時無呼吸症候群 —Sleep Apnea Syndrome—

寝ている時に呼吸が止まり、大きないびきを繰り返す病気です。睡眠中に呼吸が10秒以上停止することを無呼吸といい、この無呼吸が一晩（7時間以上の睡眠中）に30回以上生じる状態を睡眠時無呼吸症候群といいます。



(システムイメージ)

安全点検システム MARIS (特許出願中)

医療機器の安全推進への積極的な取り組みの中から、安全点検システムを国立系大学病院と共同開発。

病院内で行う医療機器の保守・点検管理をパソコン、PDA (携帯型端末装置)、バーコードを使って、簡易にできる仕組みを確立、製品化に成功しました。

医療機器管理部門が保管していた、貸出し記録、定期点検記録や修理記録などの様々な情報をパソコンのデータベースで一元管理が可能。ペーパーレス化することで労力を軽減します。



生体情報モニター DS-7100/7110/7120

主に患者様の傍に設置し、心電図や血圧、体温、脈拍などの生体信号を表示します。容態が急変した際に、アラーム等で即時に事態をお知らせします。

医療従事者すべての方が、簡単に操作できるように設計されています。



解析付心電計 FCP-7431

心電図から突然死の危険因子を見つけ出せたら…。そんな願いを、最新のコンピューター解析ソフトに搭載した当社期待の心電計です。

心臓病や生活習慣病などの早期発見に役立ち、心電図検査に使用されます。

時代をリードする、最新知能とクラス最大の画面サイズ、また表示の鮮やかさにより抜群の操作性を誇ります。



携帯型睡眠ポリグラフ パルスリーブLS-100

ただの居眠り運転と思われていた事故や仕事中のこらえ切れない眠気が、実は“睡眠時無呼吸症候群”という病気でした。

このスクリーニング検査に使用されるコンパクトな装置です。就寝時に装着し、睡眠中のイビキや呼吸などの状態を測定、記録して、診断に活かされます。

日本ではじめて腕時計感覚の設計を実現し、さらに患者様にやさしくなった新型モデルです。



PTCAカテーテル Truelink

血管内の狭まりや詰まりにより血液の流れが悪くなった部分を広げ、正常な流れにもどす冠動脈形成術という治療に使う細く長いクダ状の製品です。

狭心症、心筋梗塞の治療法の一つで、外科的手術に比べ患者様の負担が軽減され、日帰り入院で済むなど、メリットを生んでいる発展著しい分野に対応しております。

(写真はイメージ画像です)



パルスオキシメーター マイクロ2+

採血をせずに、センサーに指を挟むだけで、血液中に溶け込んでいる酸素濃度と脈拍を測定します。入院中の患者様はもちろん、慢性的な酸素不足に悩む在宅酸素療法を受ける患者様の健康状態を計る目安としても利用されている手の平サイズの装置です。

フクダ電子は、医学学会・研究会を支援し、医学の進歩に貢献しております。

- European Society of Cardiology (2002.8)
国際学会展示風景 (ドイツ：ベルリン)



- 第67回日本循環器学会総会 (2003.3)
国内学会展示風景 (福岡：マリンメッセ福岡)



テレビ・映画に見るフクダ電子 医療機器を通じて、テレビ・映画の医療シーンに協力しております。

● テレビ

連続ドラマ『サトラレ』

テレビ朝日 (2002年7月～)

連続ドラマ『仮面ライダー龍騎』

テレビ朝日 (2002年7月～)

『テレビ博物館』

東海テレビ (2002年10月)

『警視庁 鑑識班15』

日本テレビ (2002年10月)

連続ドラマ『NIGHT HOSPITAL』

日本テレビ (2002年10月～)

『立原啓裕の体にいい時間』

サンテレビ (2002年10月)

『解決! クスリになるテレビ』

テレビ東京 (2002年11月)

連続ドラマ『相棒』

テレビ朝日 (2002年12月～)

『九死に一生SP14弾』

日本テレビ (2002年12月)

『生活ほっとモーニング』

NHK (2002年12月)

『オリент急行殺人事件』

テレビ朝日 (2003年1月)

連続ドラマ『仮面ライダー555』

テレビ朝日 (2003年1月～)

連続ドラマ『メッセージ』

日本テレビ (2003年1月～)

連続ドラマ『年下の男』

TBSテレビ (2003年1月～)

連続ドラマ『伝説のマダム』

日本テレビ (2003年4月～)

『どうぶつ奇想天外!』

TBSテレビ (2003年3月)

『産婦人科医 南雲綾子』

日本テレビ (2003年4月)

連続ドラマ『顔』

フジテレビ (2003年4月～)

『介助犬シンシア』

毎日放送 (2003年5月)

連続ドラマ

『ブラックジャックによろしく』

TBSテレビ (2003年4月～)

連続ドラマ『動物のお医者さん』

テレビ朝日 (2003年4月～)

『いつでも笑みを』

関西テレビ (2002年12月)

● 映画

『恋に歌えば!』

全国東映系 (2002年11月)

『13階段』

全国東宝系 (2003年2月)

『黄泉がえり』

全国東宝系 (2003年3月)

● その他

『ゴルフダイジェスト』

雑誌 (2003年5月)



ラウンド中のゴルファー心理を解明する実験に、当社のホルター心電計 F M - 150 が活躍しました。

当期における日本経済は、金融機関における不良債権処理の長期化、株価の低迷やデフレの進行、加えてイラク戦争による米国経済の先行き不安などにより厳しい状況となりました。

また、医療機器業界におきましては、期初に薬価や特定医療材料償還価格（公定価）の引下げ、10月からは高齢者医療費自己負担増などにより、更に厳しい市場環境となりました。

このような状況の中、連結売上高は707億10百万円（前期比0.5%減）となりましたが、利益面におきましては、新製品投入による売上総利益の確保、販売費及び一般管理費の削減により、連結経常利益は92億23百万円（前期比17.1%増）となり、連結当期純利益は48億79百万円（前期比59.8%増）となりました。

当期における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動による収入が39億14百万円（前期比53.1%減）ありましたが、有形固定資産ならびに自己株式の取得等による支出が発生した結果、前期に比べて2億75百万円減少し、253億64百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、営業活動によって得られた資金は、39億14百万円（前期比53.1%減）となりました。

これは税金等調整前当期純利益93億90百万円を計上しましたが、仕入債務の減少および法人税等の支払額があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、投資活動によって使用した資金は、有形固定資産の取得等が発生したものの、保険積立金の取崩しによ

る収入があったこと等により、30億83百万円（前期比52.6%減）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、財務活動によって使用した資金は、短期借入金の増加による収入があったものの、自己株式の取得による支出等があったため10億83百万円（前期は2億88百万円の収入）となりました。

わが国の経済は依然としてデフレの深刻化が懸念されております。また世界経済においてもイラク戦争後の米国経済やSARS（重症急性呼吸器症候群）によりアジア経済は先行き不透明な状況です。

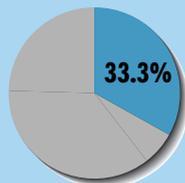
当医療機器業界におきましても、医療行政改革による医療費抑制策のため、引き続き厳しい市場環境が続くものと見込まれます。

このような状況の中、当社グループといたしましては、性能・コスト競争力の優れた製品の市場投入に加え、病院市場・在宅市場ならびに輸出の拡大に全グループをあげて取り組み、業績の拡大を図るとともに、医療機器メーカーとして「社会から信頼される会社」を目指してまいります。

次事業年度の業績の見通しにつきましては、連結売上高735億円（対当期比3.9%増）、連結経常利益98億円（対当期比6.3%増）、連結当期純利益50億90百万円（対当期比4.3%増）を見込んでおります。

部門別の連結概況

生体検査装置部門



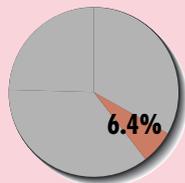
当期売上高
235億20百万円

生体検査装置部門は、生体機能を示す物理現象を電気信号に変換し、測定記録する心電計、超音波画像診断装置、ポリグラフ、血球計数装置、呼吸機能検査装置などを主に扱っております。

当期においては、新たに投入した血圧脈波検査装置の売上や超音波画像診断装置の輸出売上が貢献したものの、心電計や超音波画像診断装置の国内売上ならびに尿検査装置や呼吸機能検査装置などの売上が伸び悩んだため、売上高は235億20百万円（前期比0.1%増）となりました。



生体情報モニター部門



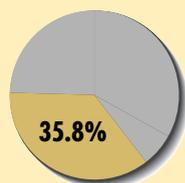
当期売上高
45億60百万円

生体情報モニター部門は、集中治療室、手術室、救急病棟などで患者様の生体諸機能情報を長時間にわたってモニターするセントラルモニター、ベッドサイドモニター、医用テレメーターを主に扱っております。

当期においては、病院市場を中心とした価格競争激化の影響を受け、売上高45億60百万円（前期比6.1%減）となりました。



治療装置部門



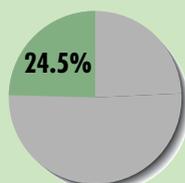
当期売上高
252億93百万円

治療装置部門は、心臓に電気的な刺激を与え、心停止の蘇生や調律異常を治療するデフィブリレーターやペースメーカー、呼吸不全の患者様の呼吸運動を補助する人工呼吸器、慢性呼吸不全の患者様に対し家庭で酸素を投与する在宅酸素濃縮器、また血管拡張用、補助循環用などのカテーテルを主に扱っております。

当期においては、睡眠時無呼吸症候群関連機器のレンタル売上やカテーテル類が売上が伸ばしたものの、診療報酬の引下げや高齢者医療費自己負担増の影響により在宅酸素濃縮器のレンタル売上が減少したため、売上高252億93百万円（前期比2.8%減）となりました。



その他部門



当期売上高
173億35百万円

その他部門は、記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する付属品および消耗品を主に扱っております。

当期においては、新規参入分野（血圧脈波検査装置・睡眠時無呼吸症候群関連機器）における消耗品の売上増により、売上高173億35百万円（前期比4.0%増）となりました。



連結財務諸表

● 連結貸借対照表 (平成15年3月31日現在)

(単位 百万円)

科目		科目	
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	25,688	支払手形及び買掛金	10,029
受取手形及び売掛金	18,306	短期借入金	9,464
有価証券	499	未払法人税等	1,430
たな卸資産	13,556	賞与引当金	1,523
繰延税金資産	1,648	新株引受権	45
その他	1,952	その他	1,825
貸倒引当金 △	209	流動負債合計	24,319
流動資産合計	61,443	固定負債	
固定資産		社債	765
有形固定資産 ※3		長期借入金	9
建物及び構築物	3,478	退職給付引当金	2,985
機械装置及び運搬具	374	役員退職慰労引当金	1,192
工具・器具及び備品	7,286	その他	11
土地	5,142	固定負債合計	4,964
建設仮勘定	22	負債合計	
有形固定資産合計	16,304	負債合計	29,284
無形固定資産		少数株主持分	
連結調整勘定	9	少数株主持分	11
その他	899	資本の部	
無形固定資産合計	909	資本金 ※4	4,387
投資その他の資産		資本剰余金	8,684
投資有価証券※1	3,794	利益剰余金	51,837
繰延税金資産	6,729	その他有価証券評価差額金 △	129
その他※1	3,113	為替換算調整勘定	61
貸倒引当金 △	4	自己株式 ※5 △	1,846
投資その他の資産合計	13,632	資本合計	62,994
固定資産合計	30,846	負債、少数株主持分及び資本合計	92,289
資産合計	92,289		

注記事項

- ※1. 非連結子会社及び関連会社に係る注記
非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。
投資有価証券 524百万円
(株 式) 3百万円
そ の 他 (出 資 金)
2. 手形割引高 198百万円
(輸出手形割引高)
- ※3. 有形固定資産の減価償却累計額 14,317百万円
※4. 当社の発行済株式総数は、普通株式 19,404千株であります。
※5. 当社が保有する自己株式の数は、普通株式 930千株であります。

● 連結損益計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで) (単位 百万円)

科目	
売 上 高	70,710
売 上 原 価	37,293
売 上 総 利 益	33,416
販売費及び一般管理費 ^{※1} _{※2}	24,411
営 業 利 益	9,005
営 業 外 収 益	312
受 取 利 息	18
受 取 配 当 金	26
為 替 差 益	4
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	14
そ の 他	247
営 業 外 費 用	93
支 払 利 息	78
そ の 他	15
経 常 利 益	9,223
特 別 利 益	717
保 険 解 約 益	717
特 別 損 失	550
固 定 資 産 売 却 損 ^{※3}	31
固 定 資 産 除 却 損 ^{※4}	107
ゴルフ会員権評価損	14
投資有価証券評価損	396
税金等調整前当期純利益	9,390
法人税、住民税及び事業税	3,736
法人税等調整額	771
少数株主利益	2
当 期 純 利 益	4,879

注記事項

※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

役員従業員給料手当等	9,547百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	2,505百万円
役員退職慰労引当金繰入額	86百万円
退職給付費用	669百万円
減価償却費	939百万円

※2. 一般管理費に含まれる研究開発費は、734百万円であります。

※3. 固定資産売却損の内訳

土 地	15百万円
そ の 他	15百万円
合 計	31百万円

※4. 固定資産除却損の内訳

工具・器具及び備品	28百万円
ソフトウェア	58百万円
そ の 他	20百万円
合 計	107百万円

●連結剰余金計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

(単位 百万円)

科目		
資本剰余金の部		
資本剰余金	期首残高	8,683
資本剰余金	増加高	0
自己株式処分	差益	0
資本剰余金	期末残高	8,684
利益剰余金の部		
利益剰余金	期首残高	47,604
利益剰余金	増加高	4,879
当期純利益		4,879
利益剰余金	減少高	646
配当金		572
役員賞与		70
(うち監査役賞与)		(0)
従業員奨励及び福利基金 ^(注)		3
利益剰余金	期末残高	51,837

(注) 従業員奨励及び福利基金は、中華人民共和国所在の子会社が当該国の法令に基づいて設定したものであります。

●連結キャッシュ・フロー計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

(単位 百万円)

科目			科目		
営業活動によるキャッシュ・フロー			投資活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	9,390	定期預金の純減少額	31		
減価償却費	3,325	有形固定資産の取得による支出	△ 2,998		
貸倒引当金の減少額	△ 36	有価証券・投資有価証券の取得による支出	△ 768		
賞与引当金の増加額	8	有価証券・投資有価証券の売却による収入	99		
退職給付引当金の増加額	6	保険積立金の積立による支出	△ 512		
役員退職慰労引当金の減少額	△ 61	保険積立金の取崩による収入	1,498		
受取利息及び受取配当金	△ 45	その他	△ 433		
支払利息	78	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,083		
固定資産売却損益	31	財務活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産除却損	107	短期借入金の純増加額	904		
投資有価証券評価損	396	長期借入金の返済による支出	△ 6		
保険解約益	△ 717	自己株式の取得による支出	△ 1,418		
ゴルフ会員権評価損	14	自己株式の売却による収入	11		
役員賞与の支払額	△ 70	親会社による配当金の支払額	△ 572		
売上債権の減少額	2,022	少数株主への配当金の支払額	△ 1		
たな卸資産の増加額	△ 363	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,083		
仕入債務の減少額	△ 3,843	現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 22		
未払消費税等の増加額	63	現金及び現金同等物の増加額	△ 275		
その他の	△ 646	現金及び現金同等物の期首残高	25,639		
小計	9,660	現金及び現金同等物の期末残高	25,364		
利息及び配当金の受取額	35				
利息の支払額	△ 81				
法人税等の支払額	△ 5,700				
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,914				

注記事項

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(平成15年3月31日現在)

現金及び預金	25,688百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△324百万円
現金及び現金同等物	25,364百万円

単体財務諸表

●単体貸借対照表（要旨）（平成15年3月31日現在）（単位 百万円）

科目	
資産の部	
流動資産	48,634
現金及び預金	19,424
受取手形	15
売掛金	16,059
たな卸資産	6,757
その他	6,951
貸倒引当金	△ 573
固定資産	21,090
有形固定資産	7,420
無形固定資産	637
投資等	13,032
投資有価証券	3,744
子会社株式	4,299
その他	6,247
投資評価引当金	△ 1,259
資産合計	69,724
負債の部	
流動負債	14,755
支払手形	4,727
買掛金	4,437
未払法人税等	630
その他	4,959
固定負債	2,794
退職給付引当金	1,107
その他	1,687
負債合計	17,550
資本の部	
資本金	4,387
資本剰余金	8,684
利益剰余金	41,078
(うち当期利益)	(2,684)
株式等評価差額金	△ 128
自己株式	△ 1,846
資本合計	52,174
負債・資本合計	69,724

●単体損益計算書（要旨）（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）（単位 百万円）

科目	
営業収益	44,241
営業費用	41,336
営業利益	2,904
営業外収益	1,137
営業外費用	105
経常利益	3,936
特別利益	823
特別損失	480
税引前当期利益	4,279
法人税、住民税及び事業税	1,850
法人税等調整額	△ 255
当期利益	2,684
前期繰越利益	2,233
中間配当額	284
当期末処分利益	4,633

●利益処分

(単位 円)

当期末処分利益	4,633,468,574
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	277,098,825
(1株につき15円)	
役員賞与金	28,400,000
(うち監査役賞与金)	(1,000,000)
固定資産圧縮積立金	1,289,600
別途積立金	2,000,000,000
次期繰越利益	2,326,680,149

- (注)1. 平成14年12月10日に284,618,505円（1株につき普通配当15円）の中間配当を実施いたしました。
2. 利益配当金は、自己株式930,745株（うち205,000株はストックオプションを目的として取得したものであります。）を除いて計算しております。
3. 固定資産圧縮積立金は、税効果会計の税率変更に伴うものであります。

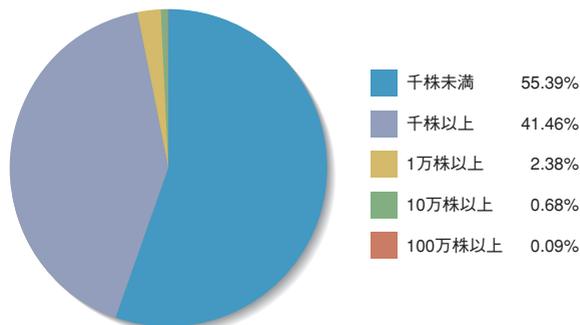
株式の状況 (平成15年3月31日現在)

発行する株式の総数	30,000,000株
発行済株式の総数	19,404,000株
当期末株主数	3,234名

大株主

株主名	当社への出資状況	
アトミック産業株式会社	2,438千株	12.57%
東京エンタープライズ株式会社	1,447	7.46
ポストセーフデポジットビーエスディーテー トリーテイクライアンツオムニバ	1,233	6.36
株式会社東京都民銀行	947	4.88
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	758	3.91
株式会社みずほ銀行	737	3.80
株式会社東京三菱銀行	725	3.74
日本生命保険相互会社	672	3.47
福田順子	550	2.84
福田孝	549	2.83

株式の状況



株主の皆様へ フクダ電子からのお知らせ

本年4月1日施行の商法改正により、当社は次の制度を導入いたします。

株券失効制度

株券失効制度とは、株主様がご所有の株券を紛失された場合、従来の裁判所に申し立てて除権判決を得る手続きに代わり、当社の名義書換代理人（住友信託銀行）に対して株券喪失登録を申請し、その後異議の申し立てなく1年が経過すれば、当該株券を無効とした上で、再び株券を発行することができる制度です。

単元未満株式の買増制度

単元未満株式の買増制度とは、単元未満株式（当社の場合は100株未満の株式）をご所有の株主様が発行会社（当社）に対して、その単元未満株式と併せて1単元となるべき単元未満株式の買増を請求できる制度です。（証券保管振替制度をご利用の株主様はお取引の証券会社にお問い合わせください。）

※買増請求は7月1日(火)より受付開始いたします。

■上記制度にかかる手続き、費用などのお問い合わせにつきましては、当社名義書換代理人である住友信託銀行にご連絡ください。

お問い合わせ先 住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-176-417

●株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日
公告掲載新聞	そのほか、必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。 東京都において発行する日本経済新聞
1単元の株式の数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417 (24時間対応) (その他のご照会) 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

生命の息吹、つたえる、企業。

フクダ電子には、世界の人々を健康に導く永遠のテーマがあります。
私たちは、体とのコンタクトに用いる医療用電子機器の研究・開発を通じ
明日の健康社会に貢献する新たな技術を常に追求しています。



医療と健康をつなぐ
テクノロジー

フクダ電子株式会社

本社 東京都文京区本郷3-39-4 TEL.(03)3815-2121(代)

ホームページ <http://www.fukuda.co.jp/>